

H20年度実施計画(素案)

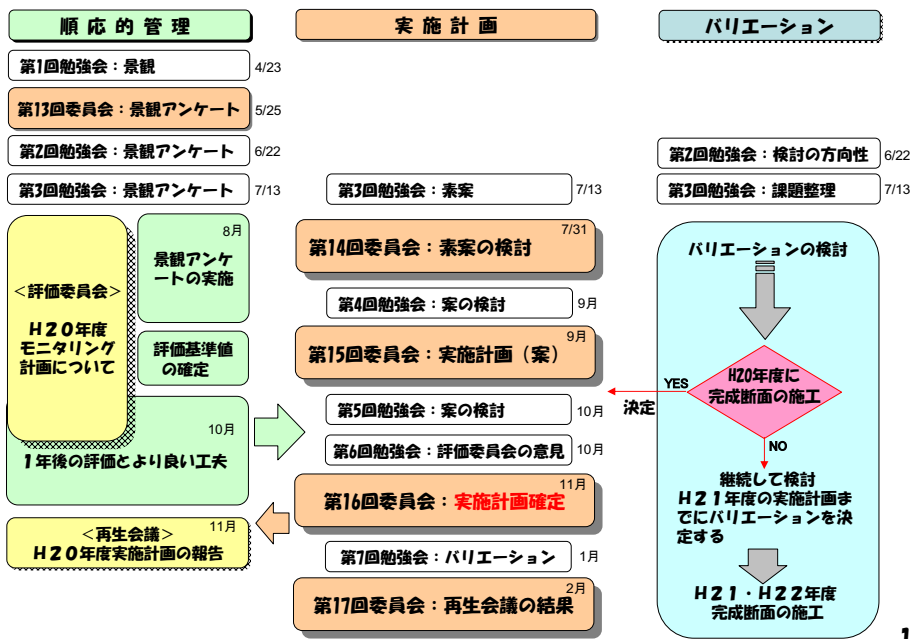
資料-3

目次	頁
1. H20年度実施計画(素案)	
(1) H20年度実施計画の検討スケジュール	1
(2) H20年度の工事の考え方	2
(3) 工事の進捗状況(残工事の整理)	4
(4) H20年度工事(素案)	5
(5) H20年度モニタリング計画(案)	8
参考資料1. 塩浜地区まちづくり基本計画(市川市)	9
参考資料2. 護岸の平面デザイン(検討中)	10
参考資料3. H19年度の試験施工について(平面・断面)	11

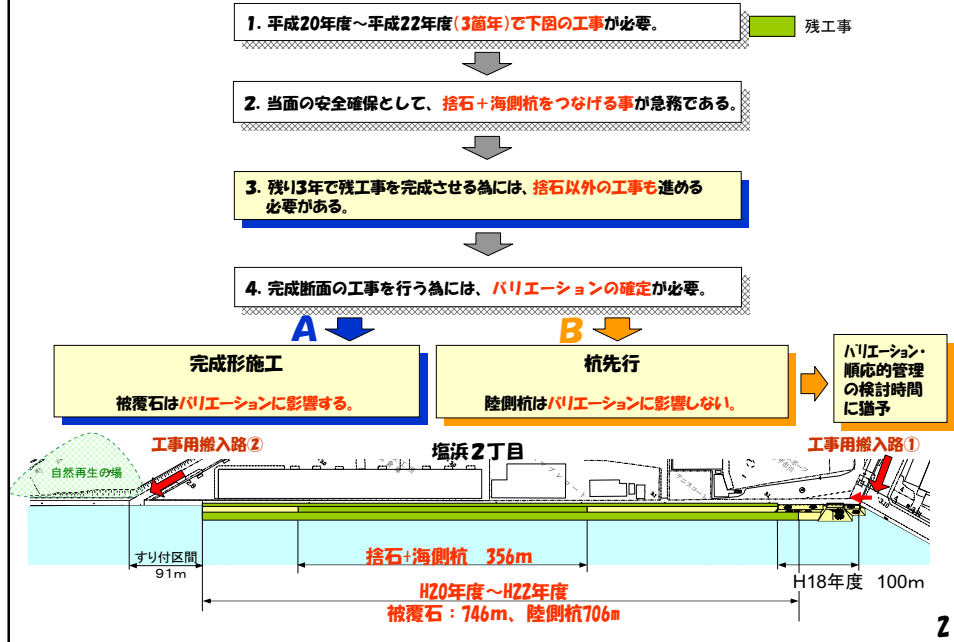


公開モニタリング調査の状況

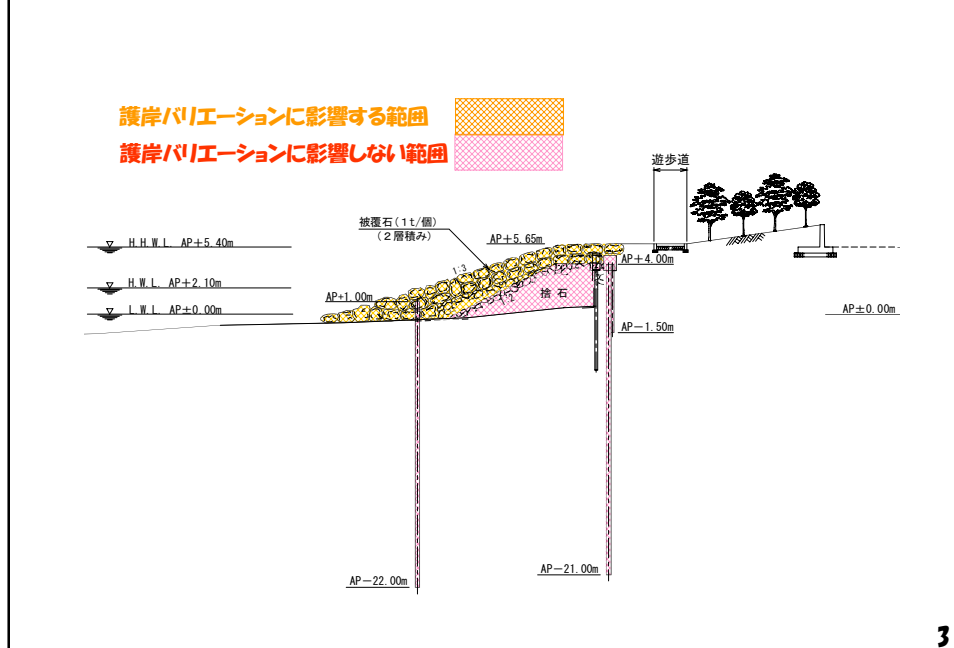
(1) H20年度実施計画の検討スケジュール



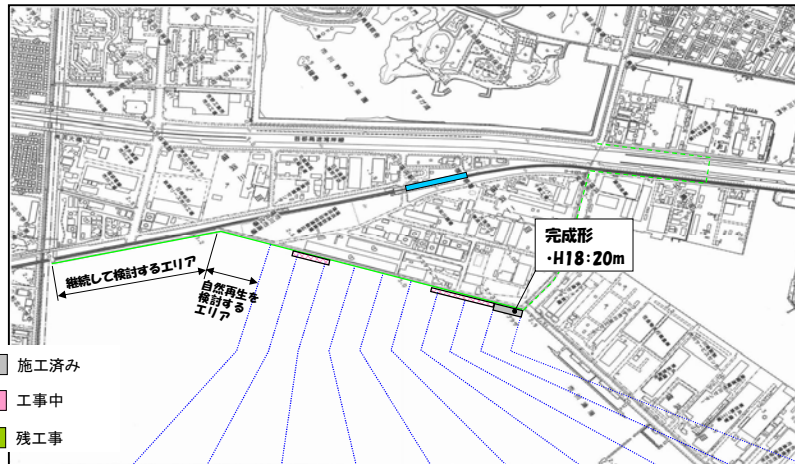
(2) H20年度の工事の考え方



参考 護岸バリエーションに影響する範囲(断面)



(3) 工事の進捗状況(残工事の整理)

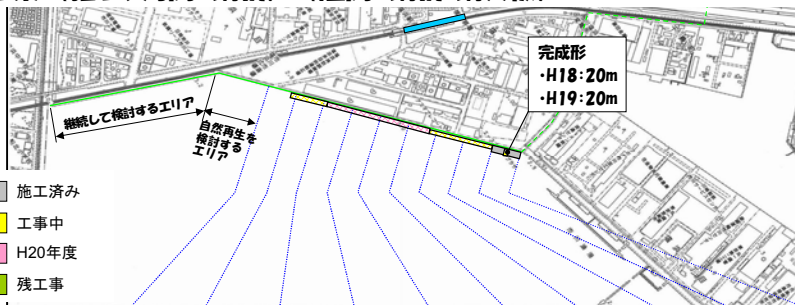


工種・箇所区分	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
海城工事 捨石+H鋼杭(倒壊防止)		120m					230m		100m
海城工事 被覆石(バリエーション)									20m 20m
陸域工事 H鋼杭+鋼矢板(倒壊防止)									80m
陸域工事 被覆石(バリエーション)									20m

4

(4) H20年度工事(素案)

① 第1案(捨石、海側H鋼杭)+ (陸側H鋼杭・鋼矢板)



工種・箇所区分	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
海城工事 捨石+H鋼杭(倒壊防止)		120m		356m			230m		100m
海城工事 被覆石(バリエーション)									20m 20m
陸域工事 H鋼杭+鋼矢板(倒壊防止)					約600m				80m
陸域工事 被覆石(バリエーション)									20m 20m

メリット

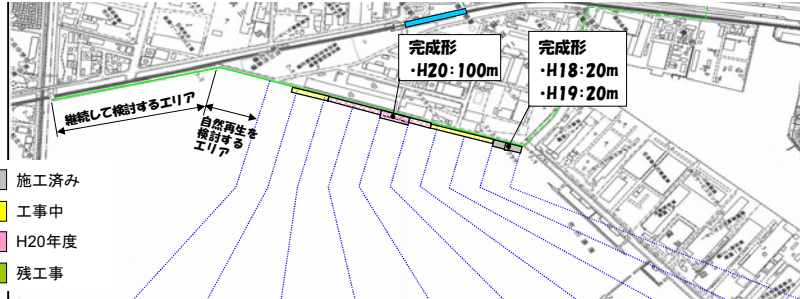
- 対象範囲の緊急対応が完了する。
- 対象範囲の地震時対応が進む。
- バリエーションに影響しない工事なので検討時間ができる。

デメリット

- 新基本断面での完成形確認は20mに限られる。

5

② 第2案
(捨石、海側H鋼杭) + (中央部100m完成形) + (陸側H鋼杭・鋼矢板 約400m)



工種・箇所区分		⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
海城工事	捨石+H鋼杭 (倒壊防止)		120m		356m			230m		100m
海城工事	被覆石 (バリエーション)					100m				20m20m
陸城工事	H鋼杭+鋼矢板 (倒壊防止)						約400m			80m
陸城工事	被覆石 (バリエーション)					100m				20m20m

メリット

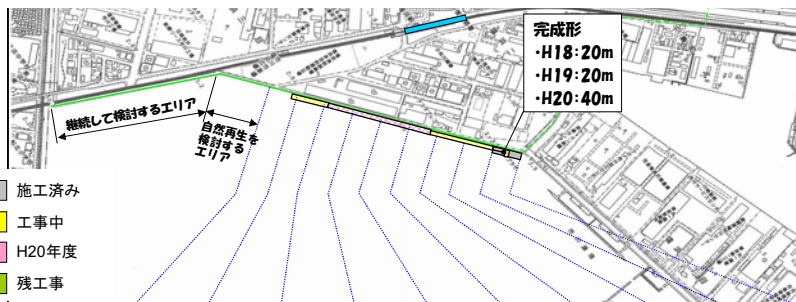
- 対象範囲の緊急対応が完了する。
- 比較的広い範囲での新基本断面が確認できる。

デメリット

- 地震時の対応が不十分のままとなる。
- 完成形とする範囲のバリエーション検討時間が短い。
- 完成形区間の底質に係わる判定基準値を早急に決める必要がある。
- 台船を使用した海上工事が必要となり、工事費が割高となる。

6

③ 第3案
(捨石、海側H鋼杭) + (完成形40m) + (陸側H鋼杭・鋼矢板 約500m)



工種・箇所区分		⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
海城工事	捨石+H鋼杭 (倒壊防止)		120m		356m			230m		100m
海城工事	被覆石 (バリエーション)									20m20m
陸城工事	H鋼杭+鋼矢板 (倒壊防止)						約500m			80m
陸城工事	被覆石 (バリエーション)									20m20m

メリット

- バリエーションに影響しない箇所の完成形であり、検討時間ができる。
- 対象範囲の緊急対応が完了する。
- 新・旧基本断面が隣り合うことになり、完成形の比較が容易。

デメリット

- 地震時の対応区間が短い。
- 新基本断面での完成形確認区間が短い。

7

(5)H20年度モニタリング計画(案)

- | | |
|----------|---|
| 1. 地形調査 | ● 施工延長に合わせて測量範囲を拡大。
● 石積護岸端部脇の地形測量については、回数を増やす。
年4回+イベント(台風等の高波)後 |
| 2. 底質 | ■ 現状の通り(検証基準については、施工箇所毎に検討する) |
| 3. 生物 | ■ 乱積部の潮間帯に、ライトランセクト法測線、
及び定量採取4検体(高・中・低潮帯、のり先)を追加 |
| 4. 波浪・流況 | ◆ 最大60日間連続観測を年2回実施 |
| 5. 青潮時 | ■ 現状の通り |
| 6. 緑化 | ● 護岸検討委員会で植栽の位置、植栽種の選定等を検討
● 追跡調査(植物種、生育密度、生育範囲等) |
| 7. 水鳥 | ■ 自然環境調査結果等を用いて施工前後の比較を行う。 |

※護岸直下の観測孔については護岸検討委員会で検討中

8

参考資料 1. 塩浜地区まちづくり基本計画 (市川市)

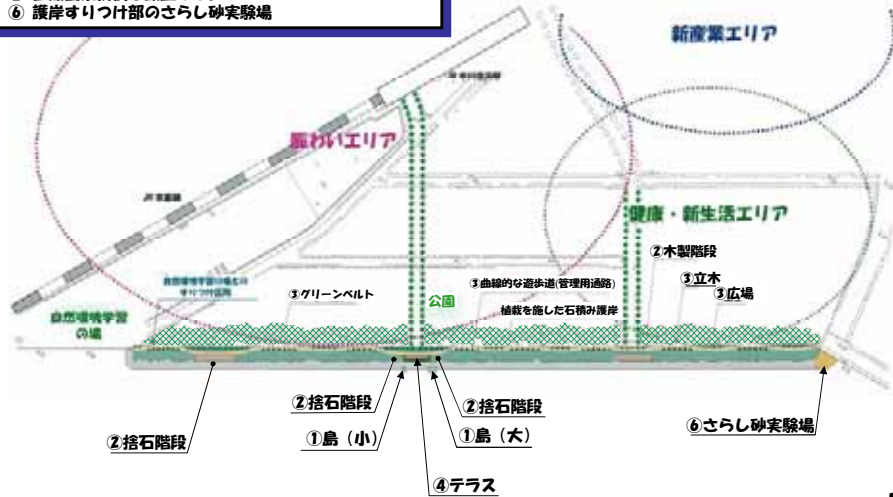


9

参考資料2. 護岸の平面デザイン（検討中）

□平面デザイン（検討中）を踏まえたバリエーションの提案

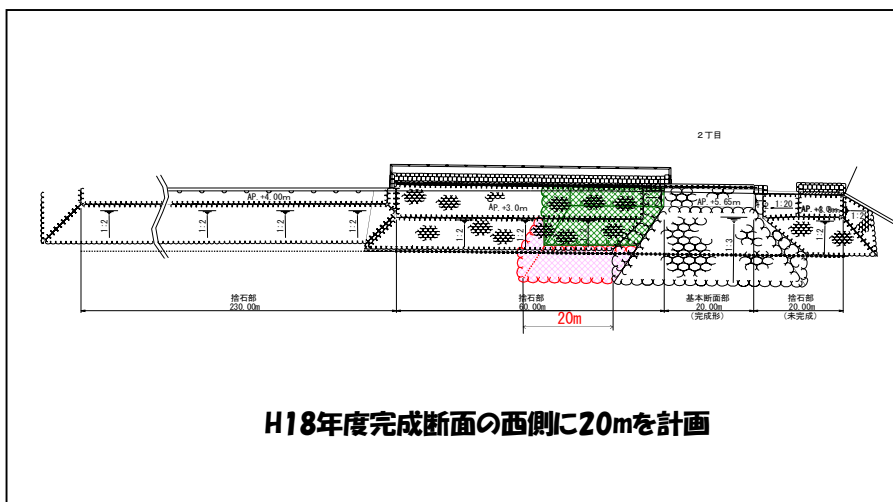
- ① シンボリックなスポットを造る。
- ② 水際へのアクセスができるように階段部を造る。
- ③ マウンドを含めた一体的な整備を図る。
- ④ 段差を利用したテラスを造る。
- ⑤ 自然観察桟橋を設置する。
- ⑥ 護岸すりつけ部のさらし砂実験場



10

参考資料3. H19年度の試験施工について(平面・断面)

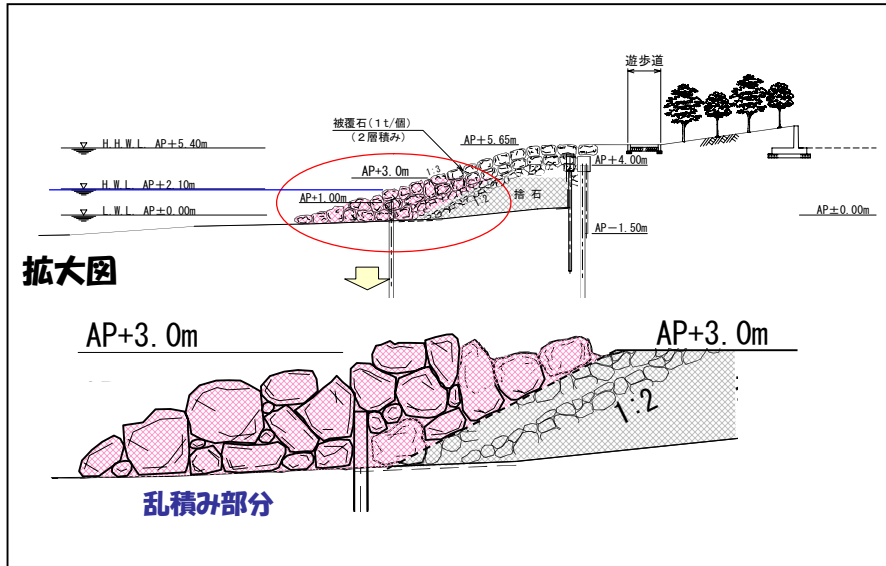
① 計画平面図



H18年度完成断面の西側に20mを計画

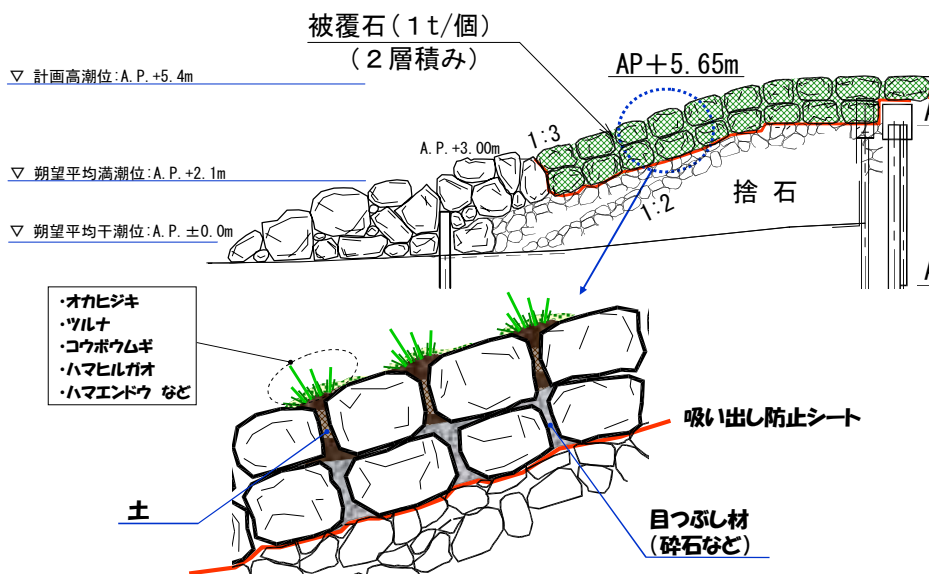
11

②乱積みの計画断面



12

③被覆の緑化工法(案)



13